

令和3年度 大阪府障がい児等療育支援事業
専門研修会
こどもへの関わり方と集団生活

梅花女子大学／大学院
心理学科 伊丹昌一

支援を要する子ども

- 身体運動症・知的発達症
(2.54% 特別支援学校、学級、通級)
 - 発達症 (6.5%)
 - 行動問題・非行
 - いじめ、不登校
 - 外国にルーツのある子ども
 - 虐待 (反応性愛着障害) (RAD)
 - 経済的問題 (貧困率14%)
 - LGBTQ (性的マイノリティ)
 - HSC (ハイリーセンシティブチャイルド)
- } 二次的症狀
- } 養育の問題

特別ではない支援

- ・ ○○障害と診断されている子どもたちだけが支援の対象ではない
- ・ 困っている子どもを含めた集団へのきめ細かい、スモールステップでの指導が必要
- ・ すべての子どもに効果のあるUDLの活用
- ・ 不登校の減少にもつながる
- ・ 一人ひとりのニーズに応じた支援
個別の支援計画・個別の指導計画

教育現場で使われるもの

ICD-11 これから	園や学校など
知的発達症	知的障害
発達性発話または言語症群	吃音症など
発達性学習症	LD/読み書き障害など
発達性協調運動症	DCDなど
自閉スペクトラム症	ASD / 自閉症など
注意欠如・多動症	ADHDなど
一次性チック/チック症群	チックなど

引用：日本精神神経学会（2018）

2022年発効予定



子どもの特性を理解する

- 特性のある子どもを「困った子ども」ととらえることは正しいのでしょうか？
- 是非、子どもたちの特性の理解を！
- 一番困っているのは子ども本人
- 「困った子ども」から「**困っている子ども**」へとその見方を変え、子どもの立場に立ってこれまでの子育てを見直す必要があります

アセスメントで注意すべきこと I

- 子どもの指導に必要な情報のみ集める
- アセスメント=心理検査ではない
- たった数時間の検査で子どもの状態は把握できない(子どもの内面の一部にスポット)
- 解釈は慎重に!(血液型性格判断に陥らない)
- 学級グループダイナミクスの中での把握を
- うまくいくコツは記録をとること

アセスメントで注意すべきことⅡ

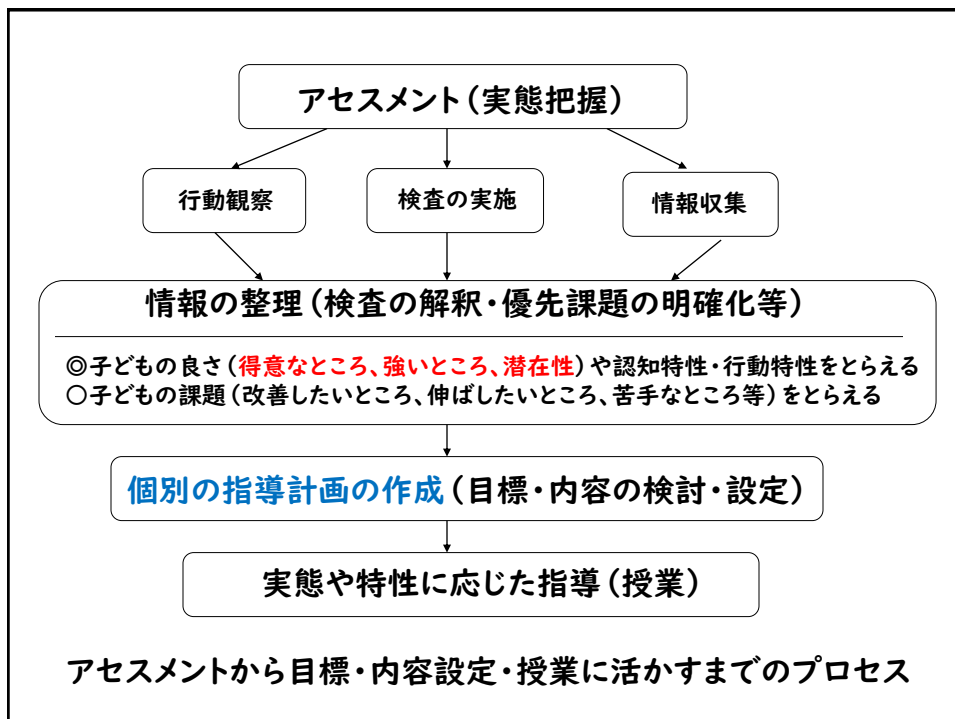
- 心理検査の数値のみではなく、検査を受ける子どもの行動様式の観察も見なければならない。
→ **数値を支持するエビデンスの把握を!**
- 検査のための検査ではなく、指導にいかせる検査の実施→検査によっては指導上非常に有効なものもある。検査は子どもの指導に反映されることで生きたものとなる。
- 検査結果の仮説から指導計画を立て、指導の記録をとる→検査の有効性のエビデンスを示す

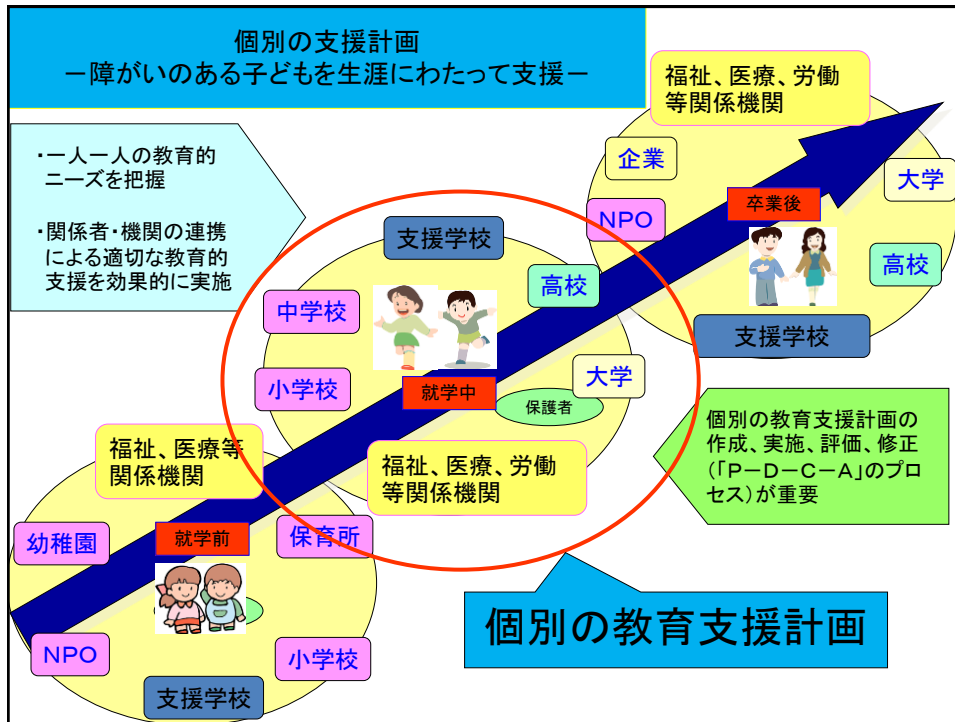
アセスメントから個別の指導計画へ

- 一人一人のニーズに応じた計画
- 長期目標と短期目標→子どもに対して具体的かつ速やかな指導、支援を可能にする
- 大切なのは指導後のアセスメント
- アセスメントから指導計画、実際の指導へと展開することは指導の構造化が論理的になされること→指導者側のスキルアップにつながる
- **個別のかかわりをすべての子どもへとつなげる**

アセスメントの種類

- フォーマルなアセスメント
(狭義のアセスメント)
いわゆる心理検査(心理アセスメント)
- インフォーマルなアセスメント
教師や保護者の日常の体験による観察
(行動観察・情報収集)





個別の教育支援計画

- 障害者基本計画において、教育、医療、福祉、労働等の関係機関が連携・協力を図り、障害のある児童の生涯にわたる継続的な支援体制を整え、それぞれの年代における児童の望ましい成長を促すため作成するもののうち、**教育機関が中心となって作成するもの**
- 支援の目標を立て、それぞれが提供する支援の内容を具体的に記述し、支援の内容を整理したり、関連付けたりするなど**関係機関の役割**を明確にする
- 保護者の同意を事前に得る**など個人情報の適切な取扱いに十分留意

個別の指導計画

- 個々の幼児・児童・生徒の**実態に応じて適切な指導**を行うために学校で作成されるもの
- 教育課程を具体化し、障害のある児童など一人一人の**指導目標、指導内容及び指導方法**を明確にして、きめ細やかに指導するために作成するもの
- 特別支援学級における各教科等の指導に当たっては、適切かつ具体的な個別の指導計画を作成するものとする
- 通級による指導において、特に、他校において通級による指導を受ける場合には、学校間及び担当教師間の連携の在り方を工夫し、個別の指導計画に基づく評価や情報交換等が円滑に行われるよう配慮する必要がある

個別の支援計画の作成

- 保護者との話し合いによる支援の決定



- 個別の支援計画の作成支援
個別の支援計画に基づく個別の指導計画
作成も重要

子どもの実態把握

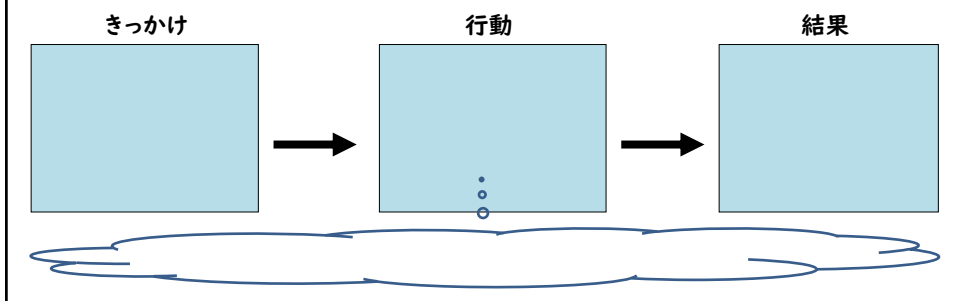
- 行動観察法
- 情報収集法
- 心理検査法

行動観察法

- 子どもの行動を観察、記録、分析し、行動の特徴や発達の状態を明らかにすることを目的としている
- どのような「**場面や状況**」の下で、どのような「**人のかかわりや事物**」に対して、どのような「**行動**」を子どもがとったのかを詳細に観察することが大切

考えてみましょう

- ・ 浩伸ちゃんは微笑みかけて接近してくる特定の子ども（女兒）に対して、ほっぺをギュッとつまんだり、相手の体を押したりします。浩伸ちゃんがこのような行動をとった後には接近してくる子どもは泣いたり、「キャー」と叫んだりして浩伸ちゃんから離れていきました。



情報収集法

- ・ 個別の教育支援計画における主訴
保護者の願い・生育歴・支援歴・主治医
子どもの実態等
 - ・ 保健の資料
 - ・ 引継ぎの資料
 - ・ サポートブック
 - ・ 連絡帳（家庭との連絡）
- *個人情報保護・管理には十分注意を！

カウンセリングマインド

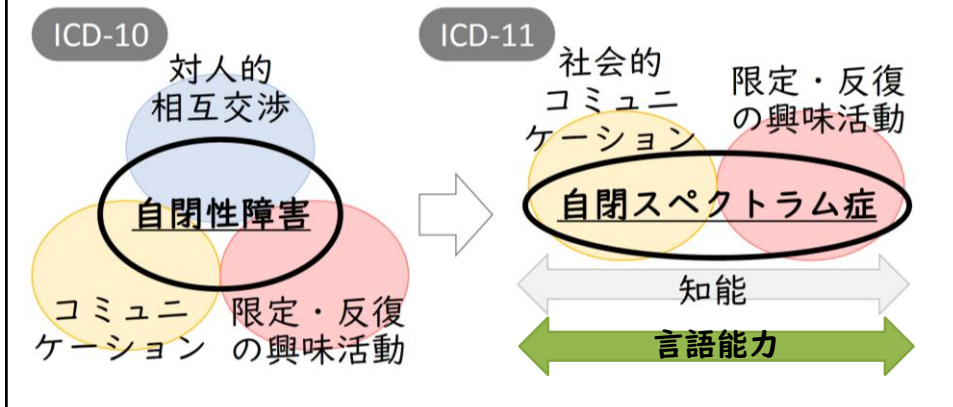
- 積極的に話に心を傾ける（傾聴）
相手の話に関心を持ち、ひたすら相手の話を聴く
「もう少し詳しく」などはいいが、質問攻めにしない
- 相手の感情や気持ちを受け止める（受容）
感情の言語化
「悲しかったのですね」など、受け止めること
- 相手の感情や気持ちを理解する（共感）
相手の感情に近づき、共に感じること
相手の考えを尊重し、理解すること
- 自分で解決できる能力を持つと信じる（尊敬）

対人支援の必要な子ども

- 友達との関係がつくりにくい
- 「一人がいい」と強がりを書いてはいるものの内実は苦しんでいる子
- 周りからは「自分勝手」「自分のことは正当化する」などと言われて、本人が孤立していくケース
- 診断の有無にかかわらず、このような対人面での支援が必要な子どもが多く在籍します
- 指導者の個別の対応と集団づくりの面から考えたいと思います

自閉スペクトラム症

- 2つの主症状へ整理
- 知能と言語能力のレベルを考慮



知的能力が高いASD

- 場の空気が読めない (嫌がっているのに気がつかない)
- 暗黙のルールがわからない (順番に話す、など)
- 思ったことをすぐ口にする「どうして毛が白いの？」
- 話が一方的である (自分の興味のある話だけ)
- 昆虫の名前、国旗など抜群に記憶力がいい
- ひとりで遊んでいることが多い (一人遊び、マニアックな遊び?)
- 変化を嫌う (ものや行為へのこだわりがある)
- 急に予定が変更になるとパニックを起こす

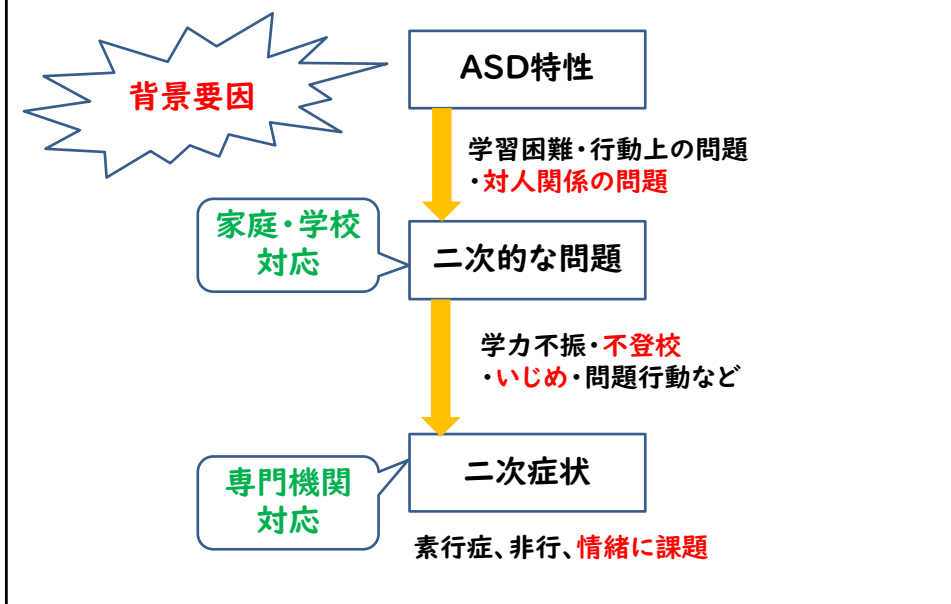
知的な遅れのあるASD

- 視線が合わない、合わせようとししない
- コマーシャルなど、場に合わない独り言を言う
- ことばがなく、甲高い声をあげる
- 特定のもの（水、鍵、食べ物など）にこだわる
- 回るもの、光るものに強く関心をもつ
- 人に対する関心が乏しい
- 意味のない空虚な笑いが見られる
- 同じ動きを繰り返す（くるくる回るなど）

ASDの症状

- 目に見えないものの理解が困難
- 自分を守る心のバリアが弱い、状況の理解が困難、理科実験型対人接近
- 不安感が強い、精神年齢が幼い、記憶が良すぎる、知能が非常に高い2Eタイプも

ASD特性と二次的問題・二次症状



かかわりについて

- ありのままの状態を受け入れる **安心感**
- 子どもの安全が脅かされるときに叱る
- 求められたらできるだけ即時に応える
- 気分や仕草、トーンを合わせる
- ことばの奥にある感情に気づく
- 相手のことば(一部でも)を繰り返す
- 求められていないことには応えない
- 助言はせずに、無心に「聴く」

ダメなものはダメ

- ほめるばかりが教育ではありません
- 「人として許されないこと」をした場合には、毅然とした態度で臨むことが当然!
- 目標行動の指導と混同しないことが大切
- 感情を交えず、いけないことをはっきり伝える
- 即座に謝罪させる(保護者や先生のモデリング)
- その時どのように行動すればよかったのかを一緒にかんがえる

柔らかな声掛け

- 怒ったような声、ヒステリックな声になると子どもの不安が増す
- 特に虐待、DVの可能性のある家庭の子は、**フラッシュバック**などの可能性も
- 指示は**CCQ**で!
- C (Calm おだやかに)、C (Close 近くで)、Q (Quietly 静かに)の略

ASDの肯定的側面

- 正義感が強い、まじめ
主張の正当性を評価し、対応の仕方を教える
- 論理的思考、理数系に強さを発揮
特性にあった進路、活動を勧める
- 記憶力が抜群
学習や趣味に生かす。みんなの前で評価する
- パソコンなど、機器関係に強さを発揮
問題行動や困難さへの対応を考える前に、子どものプラスの面を評価することが重要です

ASD支援に求められること

- 自己理解
他者理解の困難さ、自己管理の弱さ、自分の長所理解
- 自己管理
課題の優先順位など、スケジュール管理 支援ツール
- 自己解決
解決の「形」を知り、形に従い問題を乗り越える
- 自己主張
SSTやカウンセリングで、人とのつきあい方を学ぶ

ソーシャルスキルとは

ソーシャルスキルとは、良好な人間関係を作り維持していくための「人づきあいの技術」

それは、「こんなときはこうしたらうまくいく」という知識と行動の技術です

- ・学習によって身につけるもの
- ・対人関係の中で展開されるもの
- ・他者との相互作用の中で個人の目標達成に有効である
- ・社会的に受容されるもの

- ・発達症特性のある子どもたちは、「こんなとき」をキャッチするのが下手な傾向
 - ・注意力不足
 - ・集団に対して指示されても自分のことと思っていない
 - ・暗黙の了解がわからない
- ・どう行動すればよいかがわからなかったり、わかっているけど行動しなくなかったりすることも多い

楽しくないとやってくれない

ソーシャルスキル指導の基本

1. 適切な行動を教える（インストラクション）
2. 適切な行動のモデルを見る（モデリング）
3. 実際に行動を試してみる（リハーサル）
 ロールプレイやことばの反復練習
 友だちや先生と一緒に取り組む
4. 振り返り（フィードバック）
5. ほめる（強化）

集団で取り組む ソーシャルスキルトレーニング

気になる子どもへの
個別の指導・支援



全体への指導・支援

組み合わせることで
効果的に身につける
ことができる

集団ゲーム

- 1stステージ:ルールをできるだけ簡略化し、見本を見せて理解を促す⇒参加意欲の向上
- 2ndステージ:ルールを書いたボードを置いておき、困ったらいつでも見られるようにする
- 3rdステージ:それでも困る子どもには支援者が一緒に活動する

なぜアセスメントか

診断と評価 (アセスメント)

- 医学領域での診断
 - 治療を前提とした診断
 - 診断のための種々の検査
- 教育領域での評価 (アセスメント)
 - 指導:子どもの発達の様子や発達上のつまづきや課題をつかむ。

評価の本当の意義

- 目標が達成できた、約束が守れた!



- 「自分はできる」

自己肯定感

- 「自分は〇〇は得意。でも◎◎は苦手」

自己理解

将来の進路を考える元

評価で自信、自己理解

意欲があれば人はどこまでも伸びる!

- 楽しい! できた! ➡意欲
- 人の原動力は意欲
- 意欲は人を徹底的に強くたくましくする
- 能力があるだのないだの関係はない
- **意欲は能力を超える!!**

子どもを許す

- 子どもを許す勇気を持つ
- 子どもを許すとは**自分を許すこと**
- 子どもに対して「ま、いっか!」といえる

- 怒りの正体は「べき」ということば
- 私たちが怒るのは目の前で自分が信じている「べき」が裏切られたとき

子どもたちの笑顔のために

- 大人の暗い顔の向こうには子どもの笑顔はありません
- 子どもたちのつらい過去の経験は変えることはできませんが、今を幸せにすることで**未来を変える**ことは可能です!
- そのためにも、自分自身のストレスをマネジメントすることから始めましょう!
- 今日から少しずつ、無理せずやりましょう!